

31. 完了時称

未来形は werden と不定詞を組み合わせて作りましたが、このように時称の助動詞と動詞の不定詞や過去分詞を組み合わせて表現する時称のことを複合時称といいます。それに対して現在と過去はこうした助動詞を必要としないので、単一時称あるいは単独時称とよばれます。

1. 現在完了、過去完了および未来完了のような完了時称も複合時称で作られますが、英語と異なってその過去分詞は常に文末におかれます。これは助動詞を用いるときのドイツ語の原則ですから、気をつけなくてはなりません。もう一つ完了時称が英語と大きく違っている点は、完了の助動詞として haben あるいは sein のいずれかを用いることです。

現在完了 haben または sein の現在人称変化+...過去分詞(文末)

ich habe....gelernt	ich bin....gekommen
du hast.....gelernt	du bist....gekommen
er hat.....gelernt	er ist....gekommen
wir haben...gelernt	wir sind...gekommen
ihr habt....gelernt	ihr seid...gekommen
sie haben...gelernt	sie sind...gekommen

過去完了は haben または sein の過去人称変化と過去分詞を文末において作ります。

過去完了 haben または sein の過去人称変化+...過去分詞(文末)

ich hatte....gelernt	ich war.....gekommen
du hattest...gelernt	du warst....gekommen
er hatte.....gelernt	er war.....gekommen
wir hatten...gelernt	wir waren...gekommen
ihr hattet...gelernt	ihr wart....gekommen
sie hatten...gelernt	sie waren...gekommen

未来完了は werden の現在人称変化と、過去分詞に haben または sein をならべて文末において作ります。このとき文末におかれる動詞の語順に気をつけてください。かならず過去分詞を先に、完了の助動詞を後におかなくてはなりません。

未来完了 werden の現在人称変化+...過去分詞+haben または sein(文末)

ich werde....gelernt haben	ich werde....gekommen sein
du wirst.....gelernt haben	du wirst.....gekommen sein
er wird.....gelernt haben	er wird.....gekommen sein
wir werden...gelernt haben	wir werden...gekommen sein
ihr werdet...gelernt haben	ihr werdet...gekommen sein
sie werden...gelernt haben	sie werden...gekommen sein

こうした過去分詞に完了の助動詞を不定詞で組み合わせたものを、完了不定詞とよんでいます。英語も to 不定詞句でこの完了不定詞を見ることができます。

現在 *I am glad to see you.*

過去 *I was glad to have seen you.*

この *to have seen* のかたちをやはり完了不定詞とよんでいます。

2. haben 支配の動詞と sein 支配の動詞

ドイツ語の完了時称で助動詞に haben あるいは sein という2種類の動詞を使うのはなぜかという、英語でもかつてはそうだったのです。英語に

All is gone.

「すべては終わった(万事窮す)」

ということわざがあることを知っているでしょう。あるいは童謡集の「マザーグース」のなかの歌である「春が来た」は

Spring is come.

となっていて、現代英語で使われる現在完了形、つまり *Spring has come.* ではありません。

英語も18世紀ころまでは *come* や *go* のような目的語をとらない自動詞はすべて完了時称では *be* 動詞を用い、目的語をとる他動詞は *have* を用いて完了時称を作っていました。それをしだいに自動詞も他動詞も *have* を用いて完了時称を作るように変わってきましたが、今日でも古いことわざや詩のなかではそのなごりが残っているのです。

英語のもとになったドイツ語はやはり完了時称では助動詞に haben あるいは sein という動詞を用いています。しかしドイツ語も少しずつ変化していて、現代ドイツ語では次のようなきまりがあります。

a) 他動詞のすべて、自動詞の大部分は haben を用いて完了時称をつくる。

他動詞: lernen「学ぶ」 nehmen「取る」など

自動詞: arbeiten「働く」 stehen「立っている」など

b) 自動詞のうち、その意味が場所の移動と状態の変化をあらわすものは sein を用いる。

場所の移動: kommen「来る」 gehen「行く」 fahren「(乗り物で)行く」など

状態の変化: werden「…になる」 sterben「死ぬ」 wachsen「成長する」など

c) 典型的な自動詞である sein「…である」 bleiben「留まる」などは sein を用いる。

他動詞とは transitive Verben といい必ず4格の直接目的語をとる動詞で、自動詞というのは intransitive Verben といって4格の直接目的語がとれない動詞のことです。

辞書を見るときは自動詞(しばしば[自]あるいは i. と表記)なのか、あるいは他動詞(しばしば[他]あるいは t. と表記)なのかを確認して、もし自動詞で (h) と表記してあれば haben で、(s) とあれば sein で完了時称を作らなくてはなりません。

ときには (s, h) と2つ表記してあるものもありますが、これは意味によってはどちらかを使いわけるとのことになっています。例えば schwimmen「泳ぐ」i. (s, h) は泳いで場所が移動する場合は sein で、プールなどで泳いでいるだけならある一定の場所内での運動ということで haben で完了時称を作ります。

このように sein を助動詞として完了を作る動詞を sein 支配の動詞といい、haben を助動詞として完了をつくる動詞を haben 支配の動詞とよんでいます。他動詞のすべてと自動詞の大部分はこの haben 支配ですから、辞書ではこの場合は[他]あるいは t. と表記してあるだけでいちいち haben 支配を意味する (h) というしるしは書いてありません。自分のつかっている辞書ではどのように記してあるかよく見ておきましょう。